

ファンドマネージャーの眼

ファンドマネージャー独自の視点で市況を分析



『経験を積み感性を磨く』

2017年4月21日

エクイティ運用部

私は「感性」というものを大切にしています。

普段の会話の中で何気なく使っている「感性」という単語について、あらためて辞書を引いてみると次のような説明が載っています。

- ① 物事を心に深く感じ取る働き。感受性。
- ② 外界からの刺激を受け止める感覚的能力。カント哲学では、理性・悟性から区別され、外界から触発されるものを受け止めて悟性に認識の材料を与える能力。(goo 国語辞書)

日本人は、古くから四季折々の風情を大切に、侘び寂びといった独自の美意識を持っているため、感性が豊かであると言われることがあります。また、感性を Sensibility (感受性) といった一般的な英訳で表現することは難しく、「UMAMI (旨味)」のように「KANSEI」のまま国際語として使用すべきと提唱する人もいます。ただ、現代においては、食生活の欧米化やインターネットの普及などを背景に、私を含め日本人の感性が失われつつあるように思えます。

iPod や iPhone など様々なヒット商品を世に送り出した米アップル社の元 CEO スティーブ・ジョブズ氏は、日本のライフスタイルや美意識に魅せられた一人と言われています。特に、禅、和食、陶芸を愛し、曹洞宗の乙川弘文僧侶を老師として慕っていたほどです。ジョブズ氏は、日本のみならず様々な国の文化や美に触れ、体験することで感性を磨いていったのではないのでしょうか。このように考えると、私たち日本人が本来持ち合わせている感性という武器をビジネスの世界で最大限に発揮するには、目的意識を持って経験を積み重ねるほかにないと私は思っています。また、株式投資においても、感性が磨かれていないファンドマネージャーやディーラーは、iPhone のような破壊的イノベーションを起こす商品が登場していても、売れているという事実やデータを確認するまで、その存在に気付くことはないでしょう。



(出所) gettyimages[フリー素材]

<本資料に関してご留意いただきたい事項>

■本資料は、あくまで情報提供を目的としたものであり、一部主観及び意見が含まれています。最終的な投資判断は、ご自身の判断でなさるようお願いいたします。また、ファンドマネージャー等の実際の運用等に何ら制限を加えるものではありません。■本資料は、当社が信頼できると判断した情報を基に作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■投資信託の取得の申込みに当たっては、投資信託説明書(交付目論見書)をお渡ししますので必ず内容をご確認のうえ、投資判断はお客様ご自身で行っていただきますようお願いいたします。

私も少しでも感性を磨くため、休日には可能な限り新しい経験ができるよう心掛けています。例えば、料理やガーデニングなど趣味の分野では、毎回新しい料理に挑戦したり、知識を深めるために飲食店や植物園などに足を運んだりします。また、未経験の分野にも積極的に挑戦します。去年は、近年人気が高まっているリアル脱出ゲームに挑戦したほか、テスラジャパンで自動運転（オートパイロット運転支援システム）を体験させてもらいました。30代男性の私ですが、シワを改善する薬用化粧品として株式市場でも注目されているポーラのリンクルショットも使ってみました。

これらの様々な経験の中で、最近特に感性が磨かれたと実感したのは、ある陶芸家に石川県加賀市で出会った時のことです。陶芸には全く興味がなく、今でもあるとは言えません。ただその時は、車で移動中に福井県との県境の山間にひっそりと佇む九谷焼の店を見つけ、何かに引き寄せられるように店に入っていました。気が付くと、私は彼から3時間も九谷焼について学んでいました。完全に予定外の行動に私自身も困惑しましたが、次の日すぐにその経験の価値に気付くことができたのです。石川県では、駅や露店など至る所で九谷焼が売られていますが、私は数メートル先からでも機械で作られた量産品なのか、あるいは素人が焼いたものなのか名人が焼いたものなのかを直感的に感じられるような気がしました。このような感性を磨いていけば、きっと株式投資にも活きるはずです。

後日聞いた余談ですが、彼（陶芸家）はある有名な武将の末裔だそうです。思い返せば本当に貴重な出会いでした。

私は、今後も身の回りの様々なものに興味を持ち、経験を積む努力を惜しまず、外界からの感受能力「感性」を磨いていきたいと考えています。また、そうした経験が株式投資のみならず、人生を豊かにしてくれる宝物になるはずと信じています。



（出所）筆者撮影

<本資料に関してご留意いただきたい事項>

■本資料は、あくまで情報提供を目的としたものであり、一部主観及び意見が含まれています。最終的な投資判断は、ご自身の判断でなさるようお願いいたします。また、ファンドマネージャー等の実際の運用等に何ら制限を加えるものではありません。■本資料は、当社が信頼できると判断した情報を基に作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■投資信託の取得の申込みに当たっては、投資信託説明書（交付目論見書）をお渡ししますので必ず内容をご確認のうえ、投資判断はお客様ご自身で行っていただきますようお願いいたします。